

平成 8 年度

部報



北大馬術部

馬術部賛歌

滝沢南海雄君作曲

♩ 80

はるきたれば だいちはかーる、

しろがねのえんさん ゆめほうぼうたり、

たからかにいまぞいなけ、われ

らしゅんめのほまれあり。

あーかぎり。ほくだいほくだい、お

わがほころ、われらしゅんめのほまれあり。

馬術部賛歌

(昭和三十五年頃)

三浦清一郎君作歌

一

春来たれば 大地光る
銀の連山 夢花々たり
高らかに 今ぞ嘶け！
われら駿馬のはまれあり

二

時来たれば 旗をかざせ
青雲の旅路に 意気軒昂たり
高らかに 今ぞ嘶け！
われら駿馬のはまれあり

三

雲流れて 旅路遙か
青春の孤杖 泥濘はばめど
凜然と 進みて行かむ
駿馬のはまれあるかぎり

北大！ 北大！ お、我が母校
われら駿馬のはまれあり



96年北日学

訂正

(追加) P. 5

戦績報告

三大学定期戦 (於帯広畜産大学)

北大選手: 角堂 小谷 乗次

優勝: 畜大 準優勝: 北大

P. 43

北玲号主戦績

H 8	半澤杯	3課目	18位	北村
		小障害	2位	北村
	春自馬	3課目	15位	北村
		L級S & H	5位	北村
	道地区大会	L級	1位	北村
	北日学	総合	8位	北村
	全日学	総合	26位	北村

P. 39

明日檜号主戦績

H 8	半澤杯	中障害	1位	中村
	春自馬	M級C	9位	中村
		L級S & H	11位	中村
	道地区大会	内国産MC	20位	中村
	北日学	2走	3位	中村
	秋自馬	M級C	5位	中村
	全日学	2走	44位	中村

元主将より、現役へ

中村晃史

OBになり早1年、思い出を話すには時間が経ちすぎたので現役の激励をここに寄せます。

「自分のやりたい事なんだ、やりたいようにおもいつきりやれ。」

ただ責任としてルールは守らなくちゃならない。それは社会的な事（他団体に対しても、また部内でも尚更）と、生きた「馬」と言うものを扱っているが故のものだ。馬は長年の部員達の努力による賜物であり、それは将来の部員たちに当然渡さなくてはいけない財産なんだ。

以上。

目次

FOR THE TEAM	市川 瑞彦 . . . 1
主将より	池田 智義 . . . 2
96年度会計報告	 4
戦績報告	 5

調教報告&馬匹紹介

北 駿 号	 10
ファストバロン号	 14
北 凌 号	 15
北 旋 風 号	 16
フライト号	 17
北 帝 号	 21
北 祥 号	 23
北 獅 号	 25
北 優 号	 26

新馬紹介

スズロード号	 31
グラッドリー号	 34
アーネストヒダカ号	 35

離厩報告&離厩馬主戦績

明 日 桧 号	 36
北 玲 号	 40

自己・他己紹介	 44
-------------------	--------------

編集後記

F o r t h e t e a m

部長 市川 瑞彦

現在、大学のクラブ活動として馬術をやっていく場合にむずかしい問題の一つは、ほとんどの主要な大会が自馬形式によることであろう。そこでは、団体としての成績は、個人の成績の加算の結果として現れる。貸与馬形式の試合は七大学定期戦（帝大戦）などあることはあるがわずかで、人数も3名戦とかが普通で団体戦としての印象はあまり強くない。これは、馬術競技全体としては当然の流れではあろうが、大学の馬術部としては個人と団体という矛盾を抱え込むことになる。私の現役の時代は、国体とか全日本馬術大会とか自馬の大会はあったが、主要な学馬連の大会は貸与馬形式であったのでチームとしての榮譽を第一の目標に団結して頑張りやすかった状況があったようにも思う。

大学のクラブ活動として馬術を考えると、自馬といっても自ずから制約があるのは当然だろう。極言すれば、馬つきで入部してくるといわれる一部の私立大学を除いて、「普通の」大学の馬術部には部馬はいても、自馬などいないのである。だから本当に自分の思うように乗りたければ、乗馬クラブにでも自分の馬をもち自分か（誰か）が世話をして乗るしかしようがない。そのような人は、馬術界に必要であったとしても、大学の馬術部で歓迎する人材ではない。現実には馬が与えられたとしても、自分一人では何もできない。

しかし、現実はこの当たり前のことが微妙である。確かに、自馬制では馬体管理や調教の責任の所在が明確だという利点もあろう。しかしその反面、特定の馬ばかりに乗る結果になり易く、技術の伸び盛りに癖が強くてできしまったり、お互いに不可侵領域を作ってしまう、同じ馬に乗りあってオープンに議論する雰囲気なくなる、など欠点をも醸成するように思う（もっとも、私が感じていることは、現役諸君はかなりの程度克服しているのかもしれないが）。詳しいことは忘れてしまったが、OBを含めての席だったと思うが、あるOBから聞いた有力私立大学の選手の述懐である。その大学では部員は個人成績が関心の中心で、ゴールしても祝福されなかったが、北大の選手はゴールすると部員がみんな拍手して喜んだ。彼は、それをみて北大の馬術部をうらやましく思ったとのことである。これは大変いい話だと思う。

この「個人と団体」の問題には名案などなく、この矛盾を正面から受け止めて、時折振り返ってあまり片方に振れすぎないように気をつけながらやっていくしかないであろう。個人として試合に臨むには違いがないが、個人の榮譽は団体の榮譽を求めることから転がり込んでくると考えたい。チームの一員として責任をはたすように頑張る気持ちだが、無用の気負いを取り去り個人の成績にもつながるように思う。また一方、馬の割り当てなどで皆が満足するためには、能力的にも調教的にも優劣のない馬の頭数を上級生の数だけそろえることである。これは至難の技であるが、このためには、限られた繋養スペースと予算の中で、今何が必要か愛馬達にも将来に目をむけた厳しい目と決断が同時に要求される。

（98. 3. 31）

主将より

9月から主将をやることになった。北日では二走・総合共に団体をとれた。

これは、部員の技術の向上、いい馬をOBの本城さんなどが入れて下さったこと、障害の考え方に対する変化と全日に行くんだという強い思いがあったためにできたことだと思う。僕のひとつ上の先輩方は良くも悪くも馬きちが이었다。そして、その馬一筋の姿勢があったから、馬を研究したからこそ立派な戦績も出せたのだ。僕が北駿に一年間乗って感じたことは、理屈で馬は障害を飛ばないし、ハミ受けもしない、細かい事を考えるより、どうやったら障害を飛ぶ状態にもっていけるかをいかに北日までに高いレベルで習得するかということだと思う。そのためにこれから馬場が雪で使えなくなるまでにどんどん試合に出て、冬までにL級には十分通用するぐらいの実力をつけなければならない。

冬期間はもう一度基本の乗り方をじっくり見直す必要がある。さらに実力を上げるために、未だできない点をみっちりと修業するよい機会である。特に拳と脚の関係を学び、馬を本当の意味で手の内にいれていくことをやれば良いと思う。そうすることによって春のシーズンが始まってからも波に乗っていくことができるだろう。馬によって調教レベルに差はあるが、北日で権利をとることのできるレベル、さらに全日で十分通用するレベルを設定してそこから逆算していくとこれは理想であるが、2年生の秋で馬をもち、NHPでL級を確実に回ってくること、3年生の春で半澤杯、NHPでMCを確実に、3課目で47～50%ぐらいはとれること。

3年生の秋でMCを確実にし、4年生の春にはMCからMBへ3課目では50%以上を安定してとればよいと思う。これぐらいのことができれば2走、総合共に全日には確実にいけるだろう。

ところが、現在の実際の状況は、まず、人であるが、障害における走行で十分馬を制御できない者が大半で、走られることを恐れて、おどおど乗っている者や、必要以上に馬を追い落下を減らすことのできない者、それ以前の馬が怠けてポテポテの状態のままの者が多く目につく。1番の原因は経験が少ないことであるが、騎乗時間が少ないわけではなくて、実践的な想定をした騎乗や、具体的な課題を見つけ認識し、それを克服していくといった目標を設定して練習をしていないためである。

今、自分の騎乗で、1番重要な問題は何か、障害か、フラットワークか、馬自信ができていないのか、問題点自体あるいはその原因を考えなければならない。「へたくそだから、すいません」という答えがかえってくることもある。言われなくても下手くそなのは分かっている。みんな下手くそだ。「どこが下手くそか、それを直すにはどういった練習が必要か」といった部分がかけていて、ただ結果のみに一喜一憂しては成長はない。「反抗した理由が分からなければ、分かるまでビデオを見て考えろ。しょぼくれて、沈み込んでいるひまなどないはずだ。」と言いたくなる。

次に馬の調教レベル、これは自分の乗る馬が決まり、それを前の乗り手から変わったときの馬の状態を指して言うのだが、馬がきちんとはみを受け、減脚や推進が十分に分かっているという馬は北大には1～2頭しかない。長屋さんに調教していただいた馬と本城さんにJRAの乗馬センターから世話していただいた馬のみである。そのため2年生が秋からチーフとしてやっていこうというときに、

引き継ぐ側のOBや上級生は、十分に馬を良くしてから引き継ぐ必要がある。

そういった問題が山積みでスタートするわけだが、今年も何とか団体で出場するためにOBの方々の力も借りながら部を強くしていきたいと思っています。

1 9 9 6 年 会 計 報 告

収 入		支 出	
部費	606,000	飼料	1,320,148
< アルバイト >		装蹄	1,520,000
モモセ	494,200	薬品	811,556
J R A 乗馬厩	319,640	馬具・備品	108,588
J R A 開催	2,681,036	作業	121,836
朝日新聞社	375,080	電話	164,852
その他のバイト	454,790	輸送	1,701,362
< 企画・競技会 >		車両	812,456
半沢杯	112,611	酪農馬運修理代	570,000
馬場大	64,996	文化	132,345
公認	841,967	後援会	191,766
秋季自馬大	444,523	事務	44,504
その他	230,000	雑費	75,915
学馬連補助	1,963,700	試合	87,000
寄付	155,000	登録	355,300
その他	199,059	その他	283,453
[計]	8,942,602	[計]	8,301,081

戦績報告

⑤対東北大学定期戦（於北海道大学）

使用馬匹：北駿 北獅 北帝
 北大選手：浅野 小谷 寺坂
 優勝：北大 準優勝：東北大

⑥国立七大学定期戦

選手：中村 村田 中田
 優勝：京大 6位：北大

⑦第24回半澤杯記念馬術大会（於北海道大学 5月4、5日）

<複合馬術競技（太秦杯）>				馬場減点	障害減点	総減点
1位	田中	フラクランパー	酪農大	67.8	5	72.8
2位	四宮	スーパージャック	酪農大	73.9	5	78.9
3位	開発	緑 鷹	酪農大	80.3	0	80.3
5位	村田	北 獅	酪農大	75.0	10	85.0
6位	中村	北 旋 風	北大	80.2	10.5	90.7

<馬場馬術第3課目>				得点率 %
1位	佐藤	キョウワノーザン	札幌競馬場	61.4
2位	鈴木	緑 蓮	酪農大	50.4
3位	佐藤	インディアン	札幌競馬場	48.4
4位	村田	北 獅	北大	48.3
6位	池田	北 駿	北大	47.0
7位	亀山	北 凌	北大	45.9
11位	中村	北 旋 風	北大	44.3
13位	中田	ファストバロン	北大	43.6
15位	松原	北 帝	北大	42.8
16位	内海	北 凌	北大	42.7
17位	乗次	北 獅	北大	41.5
18位	北村	北 玲	北大	41.4

<中障害飛越競技（半澤杯）>				JUMP OFF			
				減点	TIME	減点	TIME
1位	中村	明日桧	北大	0	55.7	0	44.40
2位	池田	北駿	北大	0	67.2	6	46.60
3位	中田	ファストバロン	北大	4	60.20		
8位	中村	北旋風	北大	16	64.10		
9位	丸山	エアークラッシュ	北大	16	65.50		

<小障害飛越競技（河田杯）>				JUMP OFF			
				減点	TIME	減点	TIME
1位	中森	クレオパトラ	フロンティアRC	0	53.70	0	41.80
2位	北村	北玲	北大	0	55.20	0	44.80
3位	佐久間	緑蜚	酪農大	0	64.40	0	50.20

7位	小谷	ファストバロン	北大	1.5	73.50	JUMP OFF	
<新人新馬障害飛越競技(小池杯)>				減点	TIME	減点	TIME
1位	鶴見	北祥	北大	0	59.40	0	37.10
2位	松下	ヤマニフクロウ	札幌競馬場	0	58.05	0	39.60
3位	風間	グレートサウンド	早田牧場RC	0	52.20	0	39.80
4位	池田	北祥	北大	0	56.80	0	41.90
5位	亀山	北凌	北大	0	57.00	0	43.60
11位	角堂	北帝	北大	4	57.80		
16位	松原	北帝	北大	9	71.10		

◎北日本学生馬術選手権大会
出場選手
中村・中田・北村・内海

◎第31回春季北海道自馬馬術大会(於ノーザンホースパーク)

<一般馬場馬術競技第3課目 A班>				得点率	%
1位	藤田	77ザン	十勝柏友会	57.0	
2位	鈴木	ビーファイター	酪農大	56.5	
3位	瀬川	カッツブイエロウ	バインフィールズ	55.3	
13位	中村	北旋風	北大	46.5	
15位	北村	北玲	北大	45.7	

<一般馬場馬術競技第3課目 B班>				得点率	%
1位	鈴木	メイクマイティ	オーフルホースコミュニケーション	57.6	
2位	竹之内	フローディーワンダー	オーフルホースコミュニケーション	54.8	
3位	秋田	メディアストーム	ノーザンホースパーク	53.8	
10位	亀山	北凌	北大	50.0	
11位	村田	北獅	北大	49.9	

<一般馬場馬術競技第2課目>				得点率	%
1位	古川	バックス	フロンティアRC	55.3	
2位	鈴木	クム・ヘリオス	モモセRF	50.9	
3位	古村	トカチムザン	十勝柏友会	48.9	
7位	松原	北帝	北大	46.0	

<一般M級C標準障害飛越競技>				JUMP OFF			
				減点	TIME	減点	TIME
1位	佐藤	ナポレオンデュパーク	日高KF	0	76.90	0	42.30
2位	天羽	シドラ	日高KF	0	90.00	0	44.48
3位	阿部	柏霧	帯畜大	0	84.70	11	56.20
9位	中村	明日絵	北大	4.75	99.60		
13位	中田	ファストバロン	北大	8	86.60		
18位	池田	北駿	北大	12	96.70		
24位	村田	北獅	北大	20	87.20		

				JUMP OFF	
<一般L級標準飛越競技>				減点	TIME
1位	半田	ステーション	オーフルホースコミュニン	0	73.40
2位	河名	アブサン	十勝柏友会	0	77.70
3位	布施	ミス・ドロシー	北星RC	4	79.20
18位	中村	北旋風	北大	12	80.10
25位	亀山	北凌	北大	16	87.60

<一般LクラスS & H障害飛越競技>				TIME
1位	ゴンサロ・A	柏神	モモセRF	75.18
2位	斎藤	ザ・セナタ	早田RC	75.27
3位	鈴木	ファルコンY	オーフルホースコミュニン	78.00
5位	北村	北玲	北大	79.33
12位	池田	北駿	北大	84.28
27位	中村	北旋風	北大	102.10
31位	丸山	北獅	北大	134.11

<一般LクラスS & H・C障害飛越競技>				TIME
1位	村上	ミス・ジュニア	札幌乗馬クラブ	69.61
2位	長谷川	ステーション	オーフルホースコミュニン	74.09
3位	佐藤	ナポレオン・デュパーク	日高K.F	75.31
11位	中村	明日松	北大	89.05
13位	村田	北獅	北大	95.50

<特定Lクラス標準障害飛越競技>				JUMP OFF	
				減点	TIME
1位	大城	ルパン	オーフルホースコミュニン	4	87.09
2位	山崎	ルパン	オーフルホースコミュニン	4	73.47
3位	山崎	ステーション	オーフルホースコミュニン	4	73.01
8位	松原	北帝	北大	16	83.11
11位	小谷	北帝	北大	20	87.44

◎第43回北海道体育大会兼第51回国民体育大会馬術競技北海道ブロック予選大会

<成年総合馬術競技>				罰点	耐久点	余力点	総減点
1位	長谷川	メイマイティ	オーフルホースコミュニン	114.7	4.8	20.00	139.47
2位	岡本	アブサンベル	十勝柏友会	131.5	1.2	10.00	142.7
3位	久保田	アブサン	十勝柏友会	113.0	2.4	53.75	169.15
5位	中村	北旋風	北大	133.0	112	30.00	275

◎第68回全日本学生馬術選手権大会

出場選手 中田

◎第21回北海道地区馬術大会

<内国産障害飛越競技M級C>				JUMP OFF	
				減点	TIME

1位	島	バブリック	JRA日高育成	0	83.3	0	43.0
2位	川北	プリンスファイター	N. H. P	0	71.1	0	44.8
3位	田中	ブラックランバー	酪農大	0	72.8	0	53.0
7位	池田	北駿	北大	4	74.9		
14位	中田	ファストバロン	北大	7	77.5		
19位	村田	北獅	北大	12	68.0		
20位	中村	明日桧	北大	12.5	108.7		

JUMP OFF

< L級一般障害飛越競技 >				減点	TIME	減点	TIME
1位	北村	北玲	北大	0	74.37	0	50.24
2位	松井	マリーゴールド	モモセRF	0	69.16	0	50.81
3位	後藤	ダイヤモンド	浦河高校	0	78.16	4	52.93
12位	中村	北旋風	北大	0	71.20		
	亀山	北凌	北大	失権			

JUMP OFF

< 特定L級障害飛越競技（新馬） >				減点	TIME	減点	TIME
1位	鈴木	緑蓮	酪農大	0	80.0	3	59.4
2位	N. Costello	イデツバサ	早田牧場RF	0	76.2	4	51.26
3位	永田	ビーファイター	酪農大	4	77.6		
6位	松原	北帝	北大	8	86.3		
8位	小谷	北帝	北大	24	85.1		
open	亀山	北凌	北大	8	81.8		

㊦第32回北日本学生馬術大会（於北里大）

< 学生賞典馬場馬術競技 >				得点
1位	梶本	ザ・ジェネス	岩大	919
2位	田中	緑蓮	酪農大	907.5
3位	梶本	シンクライト	岩大	884.5

< 2回走行 >				1走目	2走目	JUMP OFF
1位	田中	ブラックランバー	酪農大	0	4	0
2位	小林	柏海	畜大	0	4	0
3位	中村	明日桧	北大	0	4	4
5位	池田	北駿	北大	7	4	
6位	中田	ファストバロン	北大	4	7	
15位	中村	北旋風	北大	13	8	
17位	村田	北獅	北大	16	16	

< 総合馬術 >				調教審査減点	耐久減点	余力減点	総減点
1位	田中	ブラックランバー	酪農大	93.00	0	0	93.00
2位	阿部	柏霞	帯畜大	95.33	0	5	100.33
3位	山本	カシワハーティ	帯畜大	105.66	0	0	105.66
4位	村田	北獅	北大	101.66	0	5	106.66

6位	池田	北駿	北大	111.66	0	5	116.66
8位	北村	北玲	北大	103.83	20	0	123.83
17位	中村	北旋風	北大	101.66	80	0	101.66
19位	亀山	北凌	北大	99.00	106	5	210
	中田	北帝	北大	123.66	3反	棄権	

㊤第10回秋季北海道自馬馬術大会（於ノーザンホースパーク） JUMP OFF

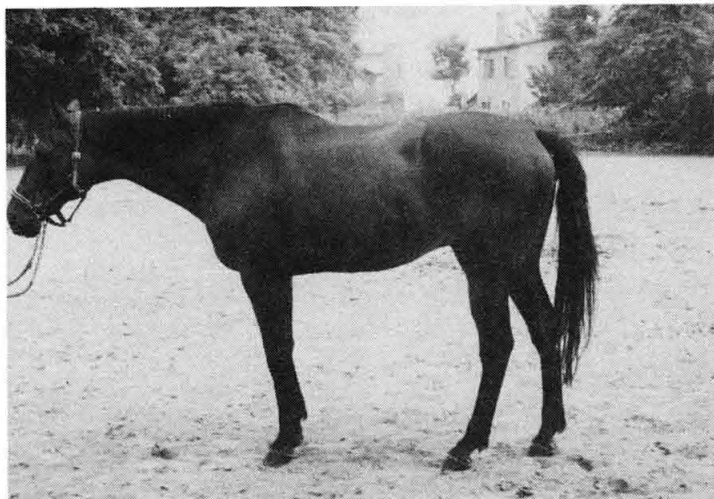
<一般標準障害飛越競技M級C>				減点	TIME	減点	TIME
1位	白井	ナポレオンデューパーク	日高ケンタッキー-F	0	75.96	0	53.04
2位	川北	プリンスファイター	日高ケンタッキー-F	0	72.62	12	54.78
3位	白井	トレイ	日高ケンタッキー-F	0	74.69		
5位	中村	明日絵	北大	7	76.04		
10位	中田	ファストバロン	北大	11.5	93.90		
12位	池田	北駿	北大	15.25	92.83		
14位	村田	北獅	北大	24	66.16		
15位	中村	北旋風	北大	28	56.08		

<特L標準障害飛越協議>				減点	TIME	減点	TIME
1位	池田	フライト	北大	0	55.76	0	48.92
2位	N. Costello	イデツバサ	早田牧場	0	64.15	0	
3位	小野	ブランドダレス	RCメインフィールズ	0	68.54	12	

㊤全日本学生馬術大会（於 東京、馬事公苑）

<二走>				減点	減点		
1位	岡部	ルパンⅢ	東京農業	4	0		
2位	大岩	明秀	明治	0	4		
3位	川俣	プチブルー	青山学院	4	7.25		
44位	中村	明日絵	北大	17	36.25		
51位	村田	北獅	北大	43	44		
	池田	北駿	北大	失権			
<賞典>				得点率			
1位	清水	桜豊	日本	59.89			
2位	奈良崎	スキポール	日本	58.11			
3位	野口	桜銀	日本	57.34			
<総合>				調教審査減点	耐久減点	余力減点	総減点
1位	野口	モディリアーニ	日本	99.08	0	5	104.08
2位	畠山	明優	明治	104.42	0	5	104.52
3位	秋葉	白翔	中央	110.75	0	1	111.75
24位	村田	北獅	北大	131.00	0	25.25	156.25
26位	北村	北玲	北大	125.83	20.4	12.25	158.48
44位	池田	北大	北大	140.67	149.2	0	289.87

調教報告・馬匹紹介 北 駿 号



北駿号調教報告

池田 智義

馬は長屋さんが調教された馬で、これまで北駿に乗って来られたOBの方も口をそろえて「馬はできているから、後はしっかり推進できればいい」とおっしゃっていたので、とにかく人間が馬に教えてもらうつもりで乗り始めた。とにかく推進が大事だと思ったので、どんどん前に出す運動をした。減脚は抜群に効く馬だったので怖がらずに思い切って乗れた。2年生から安心感のもてる馬に乗れて幸せだったと思う。そのため、試合でも練習でもすごく上り調子でいけた。8月に道大、9月の秋の自馬大にL級に出て、入賞することができた。馬にとってL級はなんでもないのだと思った。10月の山下杯はMCにでた。しっかり馴致したおかげもあって、これまた入賞した。馬をもって2カ月でMCまで到達できて良かった。

シーズンが終わり冬の間はしっかり座る練習をした。後、常歩を多くして馬体の疲れをとるようにした。「冬の間は地道に練習を積むと、春になってから人間が成長するのが速い。」と聞かされていたので地道に運動した。春になって半澤杯はMCにでた。入賞できた。馬場大は3課目にでた。前進氣勢をためてつめることを知らなかったなので、走らせ過ぎと言われ、全然だめだった。今思えば馬場の求めている運動内容—例えば一定のリズムの落ち着いた運動、つめのぼし、図形の正確さやメリハリといったこと—が分かっていなかった。北駿は障害でひるんだり、つまったりする飛び方をするので、試合において過剰なぐらい前に出して飛ばしていたのだが、それと馬場運動の区別がつけられなかったのだ。しかし今にして思えば3年の早い時期から馬場の運動をいいものにしようとしていたら、障害中の失速に人間が対応しきれずに反抗していただろうと思う。周りからも、とりあえず、静かに乗るよりもまず障害に必要な前進氣勢を作れない方が問題だ、という意見が多かったなので、そんなに気にしなかったのは本当のところだろう。

自馬大はMCにでた。半澤杯と違い障害が大きく見えた。準備運動の人間のビ

ビリが伝わったのか、反応が鈍く重かった。結局、1反か2反して減点マイナス10前後の成績だったように思う。1度目に反抗したときに、これまでに反抗知らずだったのもあって、ものすごく「やばい」と思い、頭が爆発して、どうやっても飛ばして帰ってやると心の中で叫び、後はがむしゃらに飛ばしにかかっていた。自馬大の後やはりノーザンのMCには自分の前進氣勢が十分でないと思い、もっともっと前に出せるようにとそればかり考えていた。公認もMCにでた。僕は北駿で二走で全日にいきたいと考えていたので、この試合は北日でのエントリーが決まる大事な試合だと位置づけていた。すなわち、1反抗でもするようなら、2走はやめて総合のみにせざるをえないと考えていた。その必死の思いが馬にも伝わったのか、結果は1落下で入賞できた。公認も終わり、もうすぐ北日だと思うとそわそわして落ち着かなかった。もっとも馬は調整のため少しのんびりしていた。

北日は、二走・総合にでることにした。フレンドリーで、見たこともない障害を見てぎょっとして硬直してしまい、また必死になって飛ばしにかかって、なんとかかえって来れた。2走の1走目、十分過ぎるくらいの前進氣勢をつくって走行にのぞんだ。かなり気合を入れていったけれども、北駿はいくつかの障害でためらいを見せた。そのため馬がびくついたなと思うと、すぐさま脚を使わなければならなかった。馬がびくついて失速してしまうのが先か、びくついても脚を使って飛ばせるか、一瞬一瞬が勝負の分かれ目だと思った。話は少し変わるが、経路は1から5番まで左手前、3番が石垣の箱障害で作ってあった。北駿は3番でつこんでしまい、派手に落とした。「あちゃー」と思って右肩越しに後ろを振り向いたら、馬が右に曲がった。「あっ、4番反対側だ」と思った瞬間に、くると馬の向きを変えると、1反抗をとられてしまった。それ以降落下も反抗もなく帰ってきた。結果、頭の悪さのせいで1落下プラス1反抗というおまけまでついた。一走目が終わって仲村さんが明日絵でマイナス0、中田さんがマイナス7、僕がマイナス7で、もしかしたら団体をとれるかもしれないと思いはじめた。そして、まわりからは「おまえの経路まちがいの1反で、団体を逃したら、坊主じゃすまんぞ。」と言われ、あしたは絶対に「後ろを見ないぞ。」と心に誓った。二走目、一走目ほど甚だしい物見はしないので、比較的気が楽だった。それでも油断しないで飛んでいたが、今度もまた10番のレンガの箱障害で踏み切りが合わず落下した。結局、計マイナス11で4位だった。

総合1日目、調教審査。馬はかなり疲れていると思った。馬は今日もまた障害と思ったのか、かかってしょうがなかった。今まで馬場はやってこなかったために、あまりよくなかった。30数頭のうちで20位ぐらいだったように思う。耐久。下見をしたときに、馴致で行った畜大に比べて北里のは思う。おもちゃのように思えた。心配なのは馬の疲れ具合と経路違反だけだった。準備運動も二走は大きく高く飛越させる必要があるが、耐久はそれよりもクロスカントリースピードで流れにのれるように低くて幅のある障害を、つまることなく飛ばせるようにした。A区間が終わってD区間スタートの前、馬のボルテージが最高潮で、押さえるのが大変だった。スタートして思いっきり前に出して、1番にむかった。スティープルの1番は走って行ったはいいが、そのままのスピードで横に逃げて行く馬がいるのを見ていたので、障害前少し馬をおさえ確実に飛ぶようにした。後は、森の中に入り、どんどん飛んで行った。20番ぐらいから森をでて、また農場の横を走るのだが、そのころになると馬は少し疲れてきて、駆歩の反応も鈍く

なってきたが、飛ぶ気はあったのですんなりとゴールできた。結果は減点0で2日間の通算は11位だった。余力。馬は、めっちゃくちゃ疲れていた。準備運動は1級程度のものを少しだけ、後は駆歩の時の脚反応だけ確認した。馬はさすがに物見をしなくなっていた。最初、少しかかりぎみで、1落下してしまい、後はすんなり帰ってきた。結局総合は6位で、二走・総合とも権利をとることができた。

北日以降、馬の疲れがどっとでてきたように思う。秋の自馬大もMCにてたがりバプールやついたてなどの物見がはげしく、また準備運動でもいい感触がつかめないままだったため、2反1落だった。これは、今までの競技成績の中で最悪であった。その頃、代が交代し主将をやっていたが、馬のセン痛による死亡や別の馬のセン痛、馬運車横転による全日馬の欠場を余儀なくされたこと、部員どうしのもめごとが獣医学部まで飛び火したことなど暗い事件が多く、2走・総合ともに権利をとれたにも関わらず、決して楽しくやっているとこの感じではなかった。そのため、僕自身が馬に乗ることに対しても十分集中することができず、変な感じのまま全日をむかえてしまった。

全日では馬は非常にビクビクしていた。ひき馬はしっかり歩いているというよりびくびくしてあせっている感じだったし、物見して立ち止まることも多かった。不安なままフレンドリーをむかえた。フレンドリーで反抗したらおそらく2走は失権するだろうと思い、必死でやった。とにかく前に出してつまりすぎないように踏み切りを前に出して大きく飛ばせるようにした。結果は意外なことに満点だった。2走の1走目。前日満点だったので準備運動が少し甘くなってしまうように思う。馬が脚にたいして十分前にでず、前進氣勢がハミにたまることなく、障害前で、いやなつまり方をしていた。そんな状態のまま、試合にでて二番障害をみて向かおうともしなくなって失権した。

総合の調教審査は、あまりよくなかった。耐久。馬は、つかれているのかにぶかった。準備馬場の障害は、普通に飛ぶが、馬の前進氣勢がたまってはいなかった。D区間スタートの前になっても馬は変に落ち着いていて「やばいなあ」と思いながらもどうしようもなかった。スタートしてすぐ走路上に一番障害が横たわっていた。なんでもない障害だったが、馬は失速、一反抗したが、何とか飛ばせた。3番は森の入り口に作られていた。馬は、走路からはいるのをいやがり、ここで2回反抗した。その後、森に入ってから、少し飛ぶ気がでて来たのか、割合スムーズにいった。その後11番でもう一度反抗して20番近くになると馬が疲れて、まえにでなくなり、ヘトヘトになりながらどうにかゴール下した。最終日の余力はかなり不安だった。2走のときの馬場のなかでの馬の様子、耐久の疲れなどを考慮すると、120cmまでとはいえ「どうなるかわからないな」と考えていた。しかし、OBの方や4年目の先輩に「最後だからきっちり今年の締めをやってこい。それが馬に乗るものの義務だ」と言われ、絶対かえして来ないといけないと思っただけ。それがよかったのかどうか分からないが、満点で帰って来れた。

1年4カ月北駿に乗って思ったことは、落下や踏み切りに関しては馬は助けしてくれる。しかし、障害を飛ぶか止まるかということについては、すべて人間の技術にかかっていると思った。もう1年北駿に乗るわけだが、もっともっと馬も人もよくして行くつもりだ。

北駿号馬匹紹介

チアフルの愛称で親しまれ、また1年生からは恐い馬だと思われています。でも個人的にはチアブーと呼ぶ方が好きです。

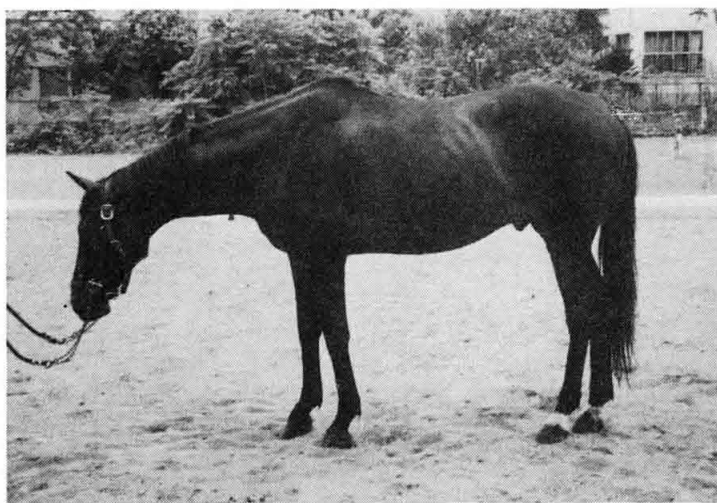
さわろうとするとブーブーと怒ってかもうとしてきますが、顔は柔らかく鼻とかプニプニしていてすごく可愛いです。いつもは手入れでかもうとしたり、後肢でけってきたりするのに、特に慣れてきて機嫌がいいとペロペロなめてきて、うれしく思ったりしていると、次の瞬間かんできたりと、よく分からなくなったりします。

運動は池田兄が騎乗していて、障害もよく飛んでくれます。馬場馬術も北大の中ではよい動きをします。

この北海道の寒いふゆでも風邪でもひかないかぎり、馬着を着せないできたえられた健康状態がチアブーの自慢です。

全日の二走・総合にでられる実力があるので、チアブーにはがんばってもらいたいです。

ファストバロン号



ファストバロン号馬匹紹介

最初サブについたころは危険馬として蹄洗ぐらしかさしてもらえなく、こわいイメージがあったがひき馬のときは草を食べているのでおとなしくてだんだんかわいくなっていきました。北日前にサブについて最初何もわからなかったが一生懸命中田兄と北日までのシーズンを過ごしているうちにますますかわいくなっていきました。北日の二走の権利をとったときはこれこそ人馬一体というのを感じさせられ準備馬場から見ていてとても感動しました。この北日中に2回もバロンにかまれましたがバロンをにくいとは思いませんでした。北日が終わってからは体の手入れもさしてもらえるようになり、何度もかまれそうになったりけられそうになりましたが、そのうちバロンの行動がわかるようになってきてバロンの考えていることが少しだけだけ分かるようになりました。サブ交代のときはバロンと離れるのがとても寂しかったです。

ということで、今でもバロンが大好きです。

北 凌 号



北凌号馬匹紹介

レジェンドのイメージは、亀山さんといちゃいちゃしている（一方的かも）ことぐらいしかありません。

北日で馬付をしました。そのときは一生懸命になって、草をかり、かみをあんまりして、レジェにつくしたつもりなのですが、北日からかえってきても全然なつかず、今にいたっては近づくのに怖がることもあります。僕は嫌われているのでしょうか。それとも亀山さんしか見えないのでしょうか・・・。

北 旋 風 号



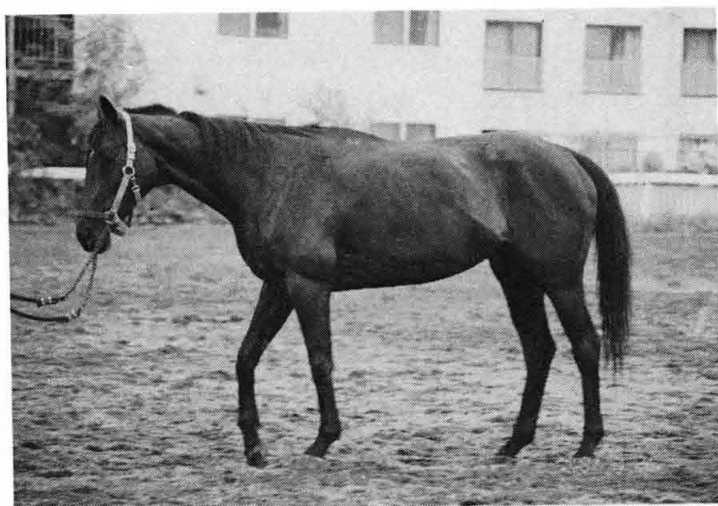
北旋風号馬匹紹介

トルネードは北旋風という名前です。「キタセンブウ」と書いて「キタノハヤテ」と読ませます。「旋風」で「ハヤテ」はないんじゃないのかと常日頃感じております。彼は「旋風」という言葉からは想像できないほど・・・です。「・・・」は適切な表現が見当たりませんので、自由に想像してください。まあとにかく、彼は1年生である僕たちにとっては、練習にかんしては脅威です。練習時間は長いし、乗っても全然動かさないし。毎朝、整列で彼のところで名前を呼ばれると重い気持ちになったものでした。彼の紹介ということなので、もうすこし書きますが、彼は競走馬時代は一勝もできず、鼻血をだして引退したというのが専らのうわさデス。本当かどうかを調べるのはめんどくさいので問わないでください。

その彼も、うちではけっこううまくやっているらしく、そこそこ期待もされているのではないのでしょうか。来年あたり、2走の権利でもとってくれるかもしれませんね。

こんな彼をこれからもかわいがっていきたいと思います。

フライト号



フライト号調教報告

河合 由枝

フライトは今シーズンはずっと治療とリハビリの一年でした。だから、何も書くことがありません。

・・・と、書こうかとも思いましたが、こんなリハビリの為の一年を過ごすことや、そのために騎乗をすることは滅多にないことであると思ったので、以下にその一年間の記録を騎乗日誌からの抜粋とともに載せて、調教報告のかわりにしたいと思う。

12月11日、三角地に放牧中に左前肢の胸に殺傷、筋肉までを切る大怪我であった。最初の2週間の記録から。

- | | |
|----------|---|
| 12/11(月) | 馬休 放牧中に三角地で大怪我。獣医に行って傷口を縫ってもらう。一週間絶対安静 馬房中にはりっぱなし。 |
| 12/12(火) | 傷口のまわりがひどく腫れている。体温高く、さすがにしょんぼりとしている。 |
| 12/13(水) | 体温は少し下がってきた。傷口の腫れはひいてこない。いつもより元気がないが、飼食いはよい。 |
| 12/14(木) | 平熱にもどる。少しずつ元気になってきた。前肢の股の間にこぶ状のものができている。浮腫だろうか？ |
| 12/15(金) | 浮腫が大きくなってきたように思う。 |
| 12/16(土) | 獣医さん「浮腫は傷の治りとともに小さくなっていくので心配ない。」とのこと。 |
| 12/17(日) | 獣医さん「傷はきれいに治ってきている。傷口が少し切れて血がにじむが薄皮が破れただけなので大丈夫。」フライトはかなり元気そうで熊癪を始める。 |
| 12/18(月) | 一週間経過。馬自身はかなり元気になって、馬房内で熊癪、左肢での前がきをする。かなり退屈そう。浮腫がやや小さ |

- くなってきた。怪我をした方の肢の球節・管にむくみが見られかなり腫れているが、気温が低いせいか、熱はない。他の肢はほとんど大丈夫だ。もっとむくんできているかと思った。
- 12/19（火） 元気が有り余ってきた。傷口まわりの腫れはかなりひいてきた。
- 12/20（水） 馬はまだつながれたまま。肢の球節・管のむくみがなぜかひいてきている。がつがつと飼を食べている。
- 12/21（木） 順調だ。明日、抜糸。
- 12/22（金） 抜糸。傷口はきれいにふさがっている。傷口の消毒を続けていく。まだ、馬房内につないだまま。

今後、フライトをどうするかについては現役が判断すべき事、と考えたのでその判断を4年目に任せる。彼らは、とにかく傷が治るまでは北大で面倒を見ることに決めたが、そのような仕事をする人も不足していたため、自分が引き受けることになった。しかし、このような場合どのように調教（治療とリハビリ）を行っていけば良いかということははっきりとはわからず、獣医さんと相談しながら手探りでリハビリを進めることになった。

一月上旬、傷口の回復とフライトが退屈し始めたのでひき運動を開始する。

- 1/7（日） 傷口はかなり良くなってきた。馬房内での熊癖がひどい。そろそろひき運動を開始しても大丈夫だろうとのこと。
- 1/11（木） 体育館前にて、ひき運動15分 久しぶりに歩いたので最初は後肢がうまく踏み込まなかったが、前肢の跛行はごくわずかで、予想していたほどひどくはなかった。
- 1/12（金） 教養前にて、ひき運動20分 南側をやたらと気にしていて、構内に向かうとき立ち止まったり、何かをととても気にしているようで集中力がなかった。

2月下旬、調馬さくによる速歩開始。内容は最初にひき馬で外乗30分以上、馬場内で調馬策速歩運動約30分程度を行う。その頃の騎乗日誌から。

予想していた以上に肢の運びがスムーズで動きも軽い。右手前に比べて左手前はややきこちない動きをしている。胸、しり、背中すべての肉がおちていて痛々しい。

最初は左右15分ずつ回していた。

右胸の筋肉、しりに肉がついてきた。左胸は傷があるため筋肉はつきにくいとのこと。

左手前を多めにし、意識的に左前肢を使わせるようにした方が左胸の筋肉がつきやすいとのこと。内容を右手前10分、左手前20分とする。一日の運動の最初の手前は左右交互に行う。筋肉がかなり柔らかくほぐれてきている。胸、しりに丸みがでてきた。

3月下旬、騎乗開始。ただし常歩のみ。怪我をしてから初めてフライトに乗ったとき、とても恐かったのを覚えている。獣医さんからも跛行したら終わりだと

言われていた。運動をしていかないと筋肉はつかないし、かといって運動がきつすぎると取り返しのつかないことになる。今だから言えることだけど、あの頃は運動をして次の日に馬場に行くのが恐ろしかった。元気そうなフライトを見ていつもほっとしていた。

- 4 / 10 (水) 騎乗にて速歩を行う。馬場内を大まわりで2週ずつ両手前。すこしぎこちなさを感じる。
- 4 / 11 (木) 三角地で調馬索の後、常歩10分、速歩5分程度。長手綱。ハミの感覚は忘れていないように思う。少しハミをひいて合図を送るとハミを求めて頭を下げてくる。いい感じ。多少、左手前において左前肢の踏み込みが弱い。夕方、奥村先生に見てもらう。左後肢の腱(球節)に軟腫のようなもやもやした感じがある。これは運動量の増加に伴うもの。大きくなってくようなら水冷などで冷やしながら。怪我の部分には問題はない。もし、この先問題がでてくれば、右前・両後肢に影響がでてくる(左前肢をかばうので)。運動量はあげても大丈夫。とにかく乗って運動することが一番、筋肉をつける。
- 4 / 16 (火) ここ2、3日両後肢の腱の部分かもやもやしている。運動後、熱を持つため水冷を行う。運動中の状態は良く、左手前においてのぎこちなさがやや気になる程度。前肢に問題はなく、傷口自体はもう大丈夫だと思う。夕方にも両後肢の水冷を行う。
- 4 / 17 (水) 運動の調子は非常に良い。
夕方、奥村先生に診てもらう。「驚くほど調子がいいね。」といわれた。両後肢も水冷を行っているのもそのような早め早めの治療が良いとのこと。この先は、キャバレッティなども取り入れてどんどん運動をしていく予定。
- 4 / 21 (日) 騎乗20分 元気がありすぎる。(昨日までの3日間は外乗のみにしていた。)前進氣勢はやたらと良く、まとまらない感じはするものの調子はよさそう。キャバレッティ間隔1.45mで4本、速歩通過。
今日、初めて右の駆歩を行う。(馬場2周程度)ぎこちなさはほとんど感じない。落ち着いたリズムのよい駆歩ができた。
- 4 / 22 (木) 非常にぎこちなさを感じたので、軽い目に運動を終える。奥村先生に診てもらう。人間でいう筋肉痛のようなものであるとのこと。左胸(傷のまわり)と首にかけて“カンメルパスタ”を塗布する。運動量は落とさずに治療をしながら運動を続けた方が良くとのこと。運動後の四肢の水冷、夕方にも熱があれば水冷を行う。
- 4 / 25 (木) 今日は非常に調子が良く、元気がありすぎた。カンメルパスタが効いているせいか前肢の運びが良くなった。30分強騎乗した。歩度を伸ばした速歩も気持ちよく伸びる。リズムはやや速い。特に左手前は速くなってしまう。両駆歩も行う。右手前は良いリズムだが、左手前はリズムが悪く、ハミをうけにくい。ハミ反抗あり、時折首をあげる。駆歩のペースも速い。練習後、カン

メルパスタ、両後肢水冷各10分。飼の量を増やす、2. 1. 1. →2. 1. 2.

5月下旬、障害を飛ぶ。怪我をしたとき、「人が乗れるようになるのが夏頃、障害が飛べるようになるのは早くて初秋頃だろう」と言われていたので驚くほど回復が早かった。できるだけ前肢に負担がかからないよう、細心の注意を払って騎乗していた。

- 5/25（土） 怪我後、初めて障害を飛ぶ。（40センチまでのばってん、踏み切り2. 7）不自然さもなくきもちよさそうに飛んでいく。いい感じだ。フライトで再び障害を飛べる日が来たことがとてもうれしい。それにしてもこんなに早くここまで回復するとは夢のようだ。
- 5/28（火） 疲れも見せずいたって元気である。左の駆歩もずいぶん落ち着いてきた。反対駆歩もできた。

フライトはなつのシーズン中ひたすらリハビリを続け、秋の国体予選、自馬大会で見事復活を果たしました。怪我から回復した後の復帰第1戦には4年目の中田弟が騎乗してくれました。彼が、見事にゴールを切ったときの感激は今でも忘れられません。騎乗日誌の抜粋にはあえて感情的な部分は割愛し、状況の報告にとどめたつもりですが、それでもこんなにページをとってしまいました。すみません。

しかし、最近、良い意味ではなくて馬の過去にこだわらない（興味がない）部員が増えてきたように思います。昔の事にこだわれと言いたいわけではありませんが、その馬が過去に（競走馬時代からも含めて）大きな怪我をしていたり、大きな爆弾を体のどこかに持っているとしたらやはりそのことには留意して騎乗したり、世話をしたりするべきではないでしょうか。そういう気遣いを馬にしてあげることが、不注意な怪我を防ぐことにもなるでしょう。騎乗しているチーフだけでなく、世話をしている下級生も良い意味で馬の過去に興味をもってそれぞれの馬に接していった欲しいと思います。

以上、なんだか何が言いたかったのか良くわからない文章を書いてしまいました。最後になりましたが、一年間、フライトを見捨てず常に治療やアドバイスを下さった獣医学部の奥村先生はじめお世話になった獣医学部の皆様、また、時折相談した際にはいつも親切にアドバイスを下さったOBの野中さん、本当にありがとうございました。この場をかりてお礼申し上げます。

北 帝 号



北帝号調教報告

北大で暮らし始めて2年目を迎えた北帝君。できた友達は北旋風君ただ1頭。夕方の手入れでは馬という生き物が危険な事を体全部で表現していたし、立ち上がって前蹴りをくらわしてくれた事もありましたが、根はとても素直でそれを感じたとき、その瞳は澄んで見えおもわずつかみたくなるえらと共にかわいくてしかたがなくなるのです。

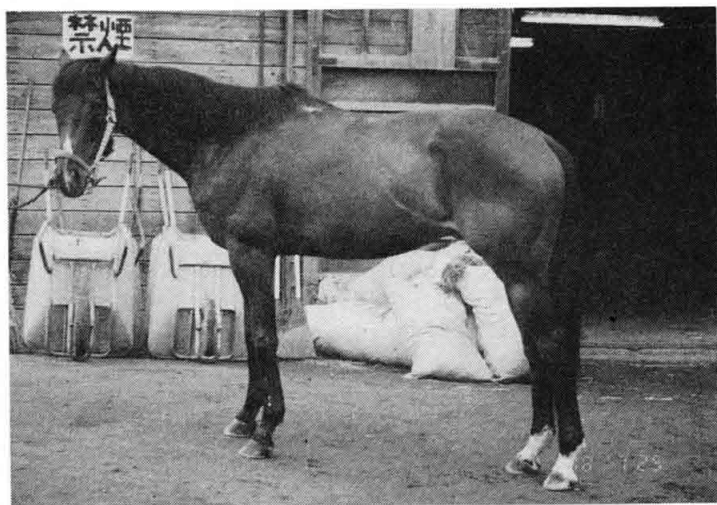
今年は馴致と初期調教の昨シーズンから、本格的な試合デビューのシーズンとして出発しました。松原兄の調教と指導のもと、現役部員が実戦で成果を出すことが重要であるという方針から騎乗は現役中心、まだまだ力不足と知識不足でいたらない所を松原兄が騎乗、同時に徹底指導を行いアドバイスを加えるといった将来本当の形で必要な主戦馬として活躍できるよう1歩踏み出した年であったと思います。最終目標の北日での総合種目完走を目指して中田兄が騎乗しました。結果帰ってくることはできませんでしたが、北日を通して大きな成果は得られたと思います。北帝の素晴らしい所は、松原兄の調教で培った騎乗者に柔順であるその性格と、少々気合が入りすぎることがありますが障害に自分から向かっていく意志、そして生まれもっての体の柔らかさです。成績はあまり賞とは縁がありませんでしたが、馬体が整うにつれて素晴らしい能力を引き出してくれると信じています。自分をはじめとし未熟者ばかりに乗られ、何かとストレスのたまる1年であったと思いますが、そのぶんを手入れ中ではなく試合で発揮してくれることを願っています。

北帝号馬匹紹介

僕はイーリー
ときどきかみます

ときどきけります
でも ほんとは かまってほしいんだ
でも かまわれすぎると いやなんだ
僕は表情が豊かなんだ
暇なときに、目や口や鼻や耳なんかを器用に動かしてるんだけど、
それを見て笑われると腹が立つんだ。
でも観光客がきたときは ちゃんとあいそをふりまいてやってるんだ。
ぼくだっていろいろ考えているんだよ。
でも結局のところ気分屋なのさ。

北 祥 号



北祥号馬匹紹介

北祥号には、1年の3月から2年の9月までの期間、馬責として関わりました。2年目の目から見た調教について、この文章に素直に書いてみたいと思います。

北祥に私がついたときは、OBの鶴見兄がチーフで、北村薫姉が馬責でした。それまで、かなり不真面目だった私ですが、新馬の馬責になるということで、がんばらなければと身が引き締まったのを覚えています。

北祥の印象として、ひどく物見をするということを強く感じました。構内の入り口にしても、始めは通らず、徐々に通るようになっても帰りだけで、馬は常におっかなびっくりという感じでした。新馬といっても入厩したてという訳でもなく、こんなことで大丈夫なのだろうか、とよく思いました。

その頃の北祥の練習は、障害中心でした。慣れてきた障害はどうにか飛ぶものの、少し踏み切りの位置が変わったり、見たことのない障害になると止まったりと、必ずしも順調というわけではなかったと思います。

しかし、障害の飛越能力に関しては、抜群で、そのバネは素晴らしいものでありました。能力的には素晴らしくても、近くで踏み切り、大きく飛ぶため、技術的にまだ未熟な私は、落馬することも数多くありました。

シーズン初めの試合は半沢杯で、結果としては新人新馬で、優勝という素晴らしい成績でした。ただ、走行に関しては、頭を上に向けて突っ走り、とにかく焦っていたという印象をもっています。

その後、ノーザンホースパークで自馬大の馴致に行った時のことです。馬にとっては、初めてのノーザンでした。物見をする馬のことですから、相当不安だったと思います。それなのに、馬を降ろすほうには、未熟な私を含めた2年生しかいませんでした。先に別の1頭が降り、それにつられた北祥はあせって降りたがりました。その時すでに引き綱をほどいてしまっていたため、押さえきれず、そのまま馬は駆け降りてしまいました。馬運車をとめた場所も悪く、降りた場所に木のラチがありました。馬はそれに足をぶつけ、結局何針も縫うようなけがをし

てしまいました。

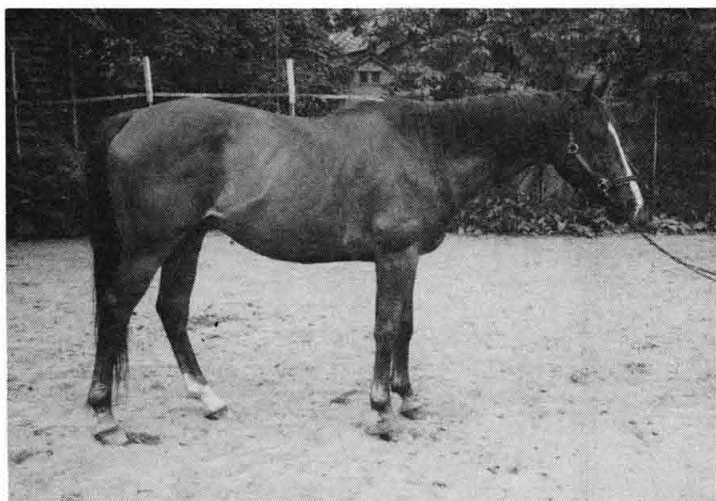
そのけがはかなり長びき、結局公認にも調整が間に合わずに一シーズンを棒に振ることとなってしまいました。年齢的にもなるべく調教を急ぎたかったはずの馬に、このようなけがをさせてしまったことを、本当に申し訳なく思います。古馬の輸送しかやったこともなく、馬輸送が怖いことだという意識も足りずに、結果的に調教を遅らせてしまったこと、これは自分自身の教訓として生かすしか謝ることはできないと、それ以後かたく心に誓いました。

けがも治り、北日も終わった8月、調教を一からやり直すということで、騎乗せずに餌や追い鞭などを使った自由飛越を行いました。このあたりから、馬の様子が変わってきたのではないかと思います。

今、北祥は北大を支える馬としてがんばっています。物見もほとんどしなくなり、高さも恐れることなく、経路走行でも落ち着いています。確実に1つ1つ飛んでいく姿を見ていると、本当に頼もしく感じます。去年は池田兄が騎乗して北日デビューを果たし、あわや権利獲得か、というところまでいきました。チーフの鶴見兄、そして北祥に関わった多くの人のおかげだと、とてもうれしく思います。

最後に、私に馬に乗る楽しさを教えてくれた北祥、そして鶴見兄、その他多くの方にこの場を借りてお礼を言いたいと思います。ありがとうございました。

北 獅 号



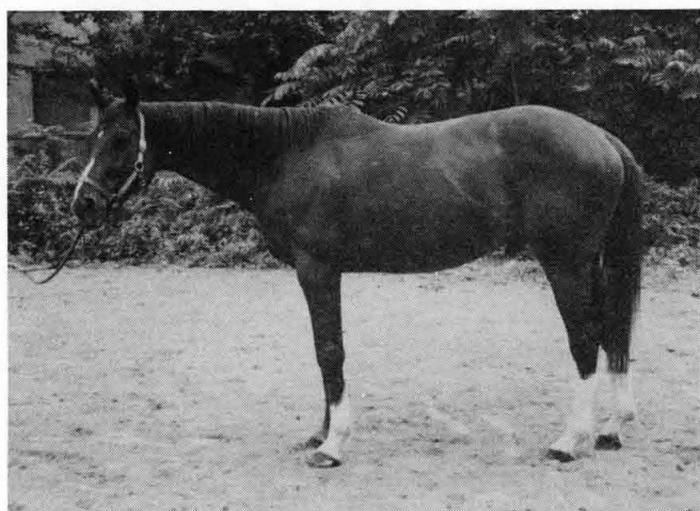
北獅号馬匹紹介

彼は、その名をSyady Du Deと言う。Duは、割りと憎たらしい顔をしている。目をつりあがって、鼻もなんだか広がっている。ほかの馬には、しょっちゅう怒るし蹴ろうとする。最大の欠点は、何ととってもせん痛である。とても気温差に敏感であるし、また、飼を急いで噛まずに食べるので、腹痛を起こしやすいのだ。

さて、悪いところはこれくらいにしておいて、Duは超スーパーホースでもある。Duはどんな物音、物体、さらに障害でも止まることはまず、ない（落とすことはたまに、ある。）さらに、もっとスーパーなところはそのキュートな仕草だ。ジャンパーのポッケに入ってるハイキューブを狙って、顔をもぞもぞとうずめてくるのがもう、たまらない気持ちになる。またあのゲップをするときの気持ち良さそうな目は、なんだかこっちまでいい気分になる。

こんなDuも、もう13になる。できるだけ長い間、北大で活躍してほしいものである。

北 優 号



北優号調教報告

黒崎 雅人

最近、北大の成績が好調な理由のひとつに松原が確立した新調教法の影響があると思う。この調教方法はもともと帯広畜産大学で行われていたものを松原が勝手に解釈したもので、さらには昭和40年代に北大で行われていたものに行き着くと思われる。北優号はこの方法、考え方に基づいて調教を行った。

私が北優の調教を始めたのは、平成7年9月のことであった。北優は札幌開催が終わるとそのまま北大馬術部に入厩することになり8月に去勢、約一ヶ月後に調教を開始した。体が柔らかく、神経質な馬というのが、私の北優に対する最初の印象であった。

調教開始当時は、主に調馬索での運動を行った。競走馬時代にしっかりと調馬索をされていたそうで、調馬索による運動は難なくこなした。非常に体の柔らかい馬であったため、どのような姿勢をとっても直径15m位の円は軽々と回ることができ、自分が好きな方向を向いて速歩をしていた。さすがに乗馬としてはこのままではまずいので、調馬索を内側に引き、頭を内方に向かせた。しかし、今度は肩を張って走り始める。体が柔らかいことは良いことには違いないが、なかなか手の掛かることであった。

北優は元々首が高い馬であり、これを下げさせることにも苦労した。調馬索運動にシャンボンを使用して頭を下げさせた。馬がシャンボンを理解していない頃はシャンボンが口にあたりと驚き、そっばして、馬転をしたことが何度かあった。これはおほんの些細なことから起こる重大なミスであったが、新馬を調教することがいかに難しいことであるかを思い知らされた。

これと平行して常歩による騎乗を行った。当然ながら競走馬上がりの新馬なた

め、今まで我々が常識としてきた脚の扶助、ハミを全く知らない。よく新馬の調教は根気強くと言われるとおり、強い扶助を極力使わないように心がけた。その時には時間がかかるかもしれないが、強い脚・拍車・鞭によって悪癖を覚え、後々苦勞することが少ないように思う。この段階において新馬に何も求めてはいけない。新しい環境、新しい馬具、新しい馬術によって非常に神経質になっているので、それを十分に考慮するべきであり、軽い脚の圧迫で歩き始めるくらいのことで十分である。また、このころは背中の筋肉が十分に発達していないため、騎乗しての激しい運動は避けるべきである。競馬では馬術のように尻を落として乗ることはないからである。

調教の初期段階には、調馬索運動により柔軟な内方姿勢と頭部の前方下伸を、常歩騎乗により脚扶助を教えた。

調馬索運動がある程度スムーズになってきたら、調馬索の中に横木をおいてこれをまたがせた。北優の場合、足元や環境の変化に対して極めて敏感であり、ただ横木を跨がせるだけでかなり苦勞した。最初は常歩から始めたが、横木をのぞき込み止まってしまう。鞭で追うとたかが横木であるが飛んでしまう。新馬の調教では、これまではある程度調教された古馬に乗っており気づかないことが多々ある。横木に限らず、障害に関する問題は未だ解決していない。多少消極的であるが、北優のように神経質な馬に対しては馴致を重ねるとともに精神的な成長を待つしかないのであろうか。

しかしながら、いくら怖いといってもたかが横木である。何度も通過する内に恐くないということを馬ながら覚えて、常歩は“普通に”跨ぐことができるようになった。続いて速歩・駆歩による横木通過を行った。常歩と同様に最初は横木を飛んでいたが何度も何度も繰り返し行ううちに普通に跨げるようになった。しかし、気を許すと怖さのためか馬が焦ってしまい、速くなる。この状況を打開するために松原式調教方法にしたがってエサを与えることにした。彼の言葉を借りれば、「馬が障害を飛んで愛撫や声で褒めたところで馬は本当に喜んでいるかわからない。そこで、よりダイレクトに褒める方法として障害通過後にエサをあげるんだ!」となる。エサを食べるために馬は障害後に止まる必要があり、速くならないはずである。ほかの新馬では効果があったように見えるが、北優の場合は本当に恐れ障害ならば、柔らかい体を生かして首を器用に曲げてエサだけかすめ取っていつってしまう。ただ、エサをもらえることによって、今までは嫌だった障害（この場合は横木通過）が嫌いでなくなっていく。

横木通過が問題でなくなった頃から、キャバレッティーブロックを使い横木の高さを上げていった。驚いたことに、北優にとってバーの高さはあまり重要な問題ではないらしく、60cmくらいまでは難なく飛ぶ。どうもバーは恐くない物だと理解したようで、多少高さを上げてもしやすいと飛んでいた。この場合の北優は特殊な例であって、一般に馬は障害の回数に対してはある程度許容度があるが、高さに対しては慎重にならなければならないと思う。以前、北海道で障害を飛越していた際には、高さで障害を怖がってしまい、その後キャバレッティーにしても挙止するという失敗をしたことがある。

北優の体がいくら柔らかいといっても、調馬索で障害をとばすには限度がある。次に、調馬索のように輪線上でなく直線上で障害飛越を行うため、バーと支柱で囲いを作り、その中の障害を飛ばせた。初期には、首を使わせ飛越姿勢を安定させるため、人は乗らなかった。通常の障害練習に比べ、障害の準備も飛越させる際にも手間はかかるが、自由な姿勢で飛越することを覚えさせるためにこの作業は必要であると思う。いくら騎手の技術が高くとも、新馬の飛越は不安定で、踏み切りを読むことは困難である。尻を着いたり、口を引っ張ったりとしているうちに、馬の飛越姿勢がどんどん悪くなるおそれがある。

ここまでで、調教を始めてからおよそ一ヶ月半が経過した。十月後半になり厩舎周りの環境がぐちゃぐちゃし始めた頃に、繁輝からフレグモーネとなった。この馬休はほぼ一ヶ月続いた。さらに、馬場が凍ったりと満足に乗れる日が続かず、調教がなかなか進まなかった。この長期馬休明けに馬が止まるようになった。北優が馬房で何を思ったか知らないが、馬休の間に馬が一変した。新馬のうちにはどんな障害でも飛ぶが、そのうちに止まることを覚えるのは避けて通れないが(あるいは私が知らないだけか)、かなり長期の馬休であったために私も感覚をつかめないまま事態を悪化させてしまった。今思うとこの時期に“障害が怖いエオン”が形成された気がする。自分の失敗を棚に上げて言うのもなんだが、現役も新馬の調教に深く関わっていることを肝に銘じておいてほしい。

人が乗っての障害飛越を始めた。しかし、恐怖心からか、どうしても速くなってしまう(障害の後にエサがあったとしても)。しかたなくアプローチの時のみハミを軽く取り、障害に入るスピードをコントロールして、障害飛越時は放棄手綱で尻を浮かすようにした。適切なスピードで障害に入れば、体の柔らかさも手伝って踏み切りもきっちり合う。馬の恐怖心も減少した。しかし、放棄手綱で障害に向かうと、どうしても速くなってしまう。松原式調教法からは外れるが、北優の場合には手綱を持ち障害を飛越することを原則とした。

積雪期には0.9~1mの高さまで飛ぶことができるようになった。乗った感じではまだまだ飛べそうであったが、高さによる障害の恐怖は後々やっかいとなること、雪で足場が良くないこと、この段階では十分であることからこれ以上高い障害を飛んだことはなかった。このころから、下級生を乗せて障害を始めた。障害前に多少速くなることを除けば問題はなかった。

しかし、ハコ物などの馴致には苦労した。どんな小さな物でも、バー以外の物があれば、のぞき込むように凝視し止まってしまう。さんざん物を見せてからでないと頑として飛ぼうとしなかった。また、前日にかなり飛んで十分慣れたとしても、次の日はまた一から馴致をし直さなければならない。さらに、同じ日でも障害と障害の間に異なる運動を入れるとだめなときもあった。

このように、モノは総じて苦手であったが、当然ながら(比較的)得意な障害とそうでない障害が存在する。最初は彼の真意がよくわからなかったが、つまるところ奇妙なモノが怖いことに尽きる。一般的に障害に関しては高さや幅に関してのみとられがちであるが、北優の場合は障害の形にこだわるようである。キ

ヤバレッティーブロックやビール箱、衝立、レンガのような“平たい”障害は比較的素直に飛んでくれる。それに対し、階段やカマボコのように複雑な形をしている障害は嫌いである。彼にとってはすぐに見極められる衝立よりも、じっくりと観察する必要のある階段の方が恐いみたいである。これも私にとっては新鮮な経験であった。馬は障害の高さと幅を見て飛んでいるものと思っていた。

シーズンに入り、下級生を乗せてバーの障害と、私が乗って障害馴致をひたすらやった。バーの飛越を繰り返すことにより障害馬としての飛越姿勢や筋肉がついてきたが、馴致は遅々として進まなかった。

障害のことはばかり書いたので、ここで馬場運動について書きたいと思う。障害と違い、馬場運動では頭を上げることを除けばかなり素直な馬である。北優は軽い馬であり脚の扶助に対して従順であった。それゆえ、フラットワークはやりやすかった。体も柔らかく輪乗り運動も難なくこなし、輪乗り運動を徹底的にやった。

ほとんどの馬は必ずどちらかの手前が得意である。北優の場合は左手前が得意である。私がよくやる手だが、得意な手前の良いところをとことん洗い出し、その長所を苦手な手前に移す。端から見ていると右手前と左手前の輪乗りを2～3周おきにひたすら続ける。私自身、どちらかといえば、右手前の方が得意なのでちょうど北優の苦手な手前を教えるのに好都合であった。あまりにこの運動をやりすぎたために、左より右手前のほうが体が柔らかくなることもあった。反対に障害に専念しすぎて馬場運動を怠るととたんに右手前が衰える。下級生（1・2年生）に右駆歩を出させて一回で発進できるかどうかで北優の調子を探ることもあった。

横運動は松原の教えに従って、徒歩調教で長鞭を使って行った。埒沿いに馬をたたせて内方脚の代わりに長鞭で推進した（追うと書いた方が適切かもしれない）。最初は私の真意を理解せずに、ただ鞭でたたかれるのではないかと驚いていたが、何度も繰り返すうちに斜め横歩らしき動きをした。すかさず褒美のエサをあげると、北優も納得したようである。ここでもエサ調教は有効であった。

障害のみならず環境の馴致にも苦労させられた。臆病な馬であることがわかっていたのでこれを改善すべく、調教初期よりほぼ毎日外乗に行った。週のうち1・2度は訓練のために恐そうなところに出かけた。一度などはこの溝を越えないと時間内に馬場に戻れないことがあり（そのようなコースをたどった私が一番悪いのでしょうか）、結局だめで急ぎ足で戻ったこともあった。その結果、壕は全然だめだが、水は比較的すなりと受け入れることがわかった。また、飛び上がりよりも飛び降りが得意であることもわかった。“恐くない外乗”の時は馬責や馬配の現役だけで外乗に行かせたが、初めてのことや危ない外乗には必ずついていった。OBだから特について行かなくてもと言われたが、臆病な馬を持ってしまった以上他の馬よりやっかひなことは多いと覚悟していたから。その代わりに北優の体の柔らかさや神経質な面で楽しめた部分も多いので五分五分だろうか。

4月から8月くらいの間は、下級生を乗せたバー障害・障害馴致・輪乗りを中心としたフラットワーク・外乗を行い、調教段階は一進一退であった。7月の終わり頃より、コンビネーションによる障害飛越を取り入れた。ただ、障害に向かうと速くなるのは相変わらずで、アプローチの際には手綱を持つ必要があった。コンビネーションを始めた頃や障害の数が多くなると障害間（コンビネーションとコンビネーションの間）でも手綱を控えて減速する必要があった。こうなると下級生に障害をやらせるわけにはいかず、私が乗って障害を飛越した。もし、障害が恐く通過するスピードが速くなると、次の障害の間歩が合わない。すると、どんどん障害が恐くなっていくという悪循環に陥る。しかし、バーのみで作ったコンビネーションでは回数を重ねるごとに恐怖心は和らいでいった。基本的にバーのみの障害はそれほど恐くなく、エサをもらえるため好きであるから。

最後に一言、現役およびこれから調教を行うOBに対して。調教初期より私が最も気をつけていたのは、肢の状態である。北優は競馬馬の持病であるエビが悪化して引退、北大に入厩した。もと薬品（そういえば、暫定的に馬匹になったこともあったなあ）の意地からか、エビの治療は全面的に指示を出した。毎朝、一回であるが必ず肢の状態を診て水冷あるいは消炎剤の指示をした。北優に関して全運動量を知っているのは自分だけであるので、運動過多によりエビの悪化を防ぐことができるのは自分だけであると思っていたし、いくら良い調教をしたところで馬体面に問題があれば、競技馬としても引退せざるを得ない。水冷の指示は朝何分、夕方何分とかなり具体的にいった。ただ、水冷をしておいてとだけ伝え、状況のわからないサブチーフがこのくらいでいいやと思って十分に冷やす前に終わることを避けるために。また、自分自身も30分も水冷を続けていたらいい加減嫌になり、早くやめたいと思った経験があったから。

このように北優の調教一年目は終了した。前半の物覚えの良さに比べて（もともと馬が知っていたことも数多くあったが）、後半の馴致はなかなか思うように進まず、周りの者をやきもきさせたようだが、私自身この馬は時間がかかると思っていたし、その様に現役にも伝えていたので、あまり気にしないことにした。新馬調教に焦りは禁物であるから…。

新馬紹介 スズロード号



3歳ではやくも中央競馬界から引退し、その後地方で走った後モモセへ。

そして平成8年7月20日北大に入厩。北大にきて半年ぐらい後、かつての厩務員さん達がおとずれるほどかわいがられていたようでした。この馬には他にも、ひんべえ、アラマサダイオウの名があり、これらの名前でも親しまれました。

スズロード号調教報告

松原 貴史

スズロードは5歳の秋にモモセRFから北大馬術部に入厩し、現役から依頼され、翌年3月まで私が調教を担当した。その約6カ月間の調教報告を以下に書き記す。

・・・調馬索・・・

モモセRFで少し調教されていたこともあり、従来の新馬よりは理解が早かったように思うが、左手前では外側に突っ張り、右手前では内に刺さってくる感じが見られたので、新馬のときと同様に円馬場で行った。同時にシャンボンを用い、輪線上で頭を下げて首を伸ばし、かつ内方姿勢をとらせることを考えた。そして速歩、常歩、停止を声、口笛、舌鼓、鞭を効果的に用いることで、この3つの号令を馬に理解させた。この際、不必要に声、口笛、舌鼓、鞭を使うのではなく、馬の立場にたって、必要最小限だけ使うことを心がけるべきである。当然のことだが、使いすぎは逆効果である。

次に駆歩を行う段階になった。予想通り馬が速くなって、落ち着いた駆歩が行えなかった。その理由の一つとして、円馬場が狭すぎるためと考えた。まだ内方姿勢を教える段階ではなく、またこの馬はそれほど折り合いを欠く馬ではないため、乗り運動でゆっくりした駆歩を馬に教えることが最善の手段と考えた。従って、馬場の凍結など足場が不良であることも重なって、現在でも調馬索で駆歩を

ほとんど行っていない。

・・・馬場運動・・・

調馬索と同様にシャンボンを用いて運動した。先程述べたように、モモセRFで調教されていたこともあり、停止の扶助は理解していた。しかし輪乗りでは、調馬索での癖が残っていて、左手前で外側に突っ張り、右手前で内に刺さってくる感じが見られたので、単独脚を理解させ内方姿勢をとらせることを考えた。駆歩も初めは速くなったり、また速歩になったりして、なかなか持続できなかったが次第にその問題も解消していった。

次に、前肢旋回や斜め横歩を教える段階になった。この運動は、まず単独脚を教えることが必要となる。初めに前肢旋回から試みるべきであり、埒沿いで行うとより馬に理解させやすいように思う。この際、長鞭を用いると良い。この埒を使った前肢旋回が行えるようになってから、輪乗り上で行った。前肢旋回については、このような過程を踏み調教を進めた。馬が単独脚をかなり理解してきたので、前肢旋回の延長として斜め横歩行うことができたが、右脚の反応つまり右内方姿勢は未だに発展途上であるように思う。ハミ受けに関しては、シャンボンを外してもかなり安定してきた。

・・・障害飛越・・・

◎調馬索飛越

埒沿いにバーを置き、人を乗せずに調馬索を用いて障害飛越を行った。同時に障害に対して、アプローチと反対側に飛越する度に餌を与えた。まず大切なのは、馬に障害物を飛び越える喜びを教えることだと思う。低い高さのクロスや単一障害を繰り返し反復練習し、馬の障害飛越の能力を向上させることを第一に考えた。無理な高さを要求せず、相応なレベルをこなすことで、現在では90～100cmの高さを飛越できる。調教全般に対して言えることだが、特に障害調教に関しては過度な要求はせず、長い年月をかけて馬に納得させながら行うことが最善の方法だと思う。馬に障害に対する恐怖心を与えてしまったら、取り返しのつかないことになる。

◎騎乗飛越

調馬索飛越により落ち着いたペースで馬が自信をもって飛越できるようになり、ある程度の馬場運動がこなせるようになってから、騎乗して障害飛越を始めた。この場合、調馬索飛越に比べ、人が乗っているために馬は今までのバランスと異なり戸惑うことが考えられる。従って、先程と同様に必ず低い確実なレベルで行い、飛越後、調馬索飛越と同様に餌を与えて飛越する喜びを教えた。馬が落ち着いたペースで飛越できるなら、自由手綱で飛越の邪魔をしないことを心がけた。そして、クロスや単一などの単独障害を日々反復練習することにより、落ち着いたリズムで飛越できるようになった。決して調教者は無理な要求をしてはならない。何度も繰り返すが、過度の要求により馬に恐怖心を与えてしまったら終わりだと思うからだ。

次に速歩でのコンビネーションの練習を始めた。今までの障害飛越と同様に、餌を与えながら反復練習を行った。低いレベルで馬に自信を持たせることが先決である。これも自由手綱で無理なく徐々にレベルを上げた。一定の落ち着いたリズムで飛越させることが第一であり、速くなってしまうようならまだそのレベル

ではないと判断し、ゆっくり飛越できるレベルまで戻ることも多々あった。現在でも速くなり焦って飛越することがあるが、かなり良くなってきていると思う。

そして物の飛越である。初めは小さい物を古馬の後ろにつけて飛越させ、安定してから1頭での飛越を行った。飛越は速歩で行い、飛越の度に餌を与えたので、餌を貰う場所での停止を覚え、新馬によく見られる爆走を防ぐことができた。この日々の反復練習により、馬は次第に落ち着いて飛越できるようになるために、最後は自由手綱で行うことができた。同様の方法により、様々な物障害を行なった。現在では北大の物障害はほとんど飛越できるレベルにあると思う。その後、コンビネーションに物を入れたりして、様々なパターンの障害を無理なく練習することにより、こなすことができるようになった。

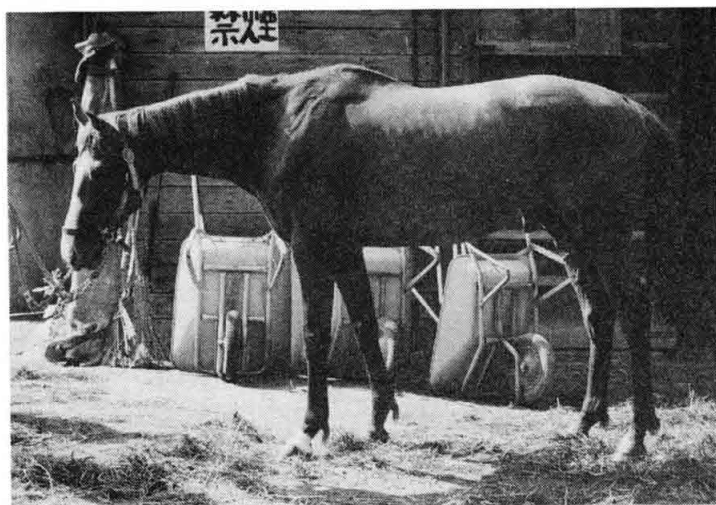
次に乾壕や水壕の馴致を行った。これも先程と同様の方法により、小さい乾壕や水たまりなどを古馬の後ろにつけることから始めた。その訓練により、馬が何の躊躇もなく、乾壕を飛越したり、水たまりに入るようになった。現在は北大の乾壕、バンケット、飛び上がり、飛び降りを無難にこなしている。

最後に駆歩飛越について述べる。フラットワークがかなり良くなり、速歩でコンビネーション障害や物障害を無難に飛越できるようになった時点から始めた。まず初めに、フラットワークと同じリズムで飛越することが重要だと思う。つまり、馬に余計な緊張感や推進力を与えることなく、馬なりで飛越させることが第一である。踏切を無理に合わせずに、同じリズムで飛越することだけを考えた。速歩での障害訓練ができていたので、障害に対する拘りは全く、自ら飛越しようという意気込みが感じられた。

・・・総括・・・

このようにして調教を進めたが、現在のスズロードのレベルはまだ新人新馬レベルであり、北大以外の場所での馴致を全く行っていない。そのため、数多くの課題が山積みであり、この馬を生かすも殺すも次の調教者にかかっている。

グラッドリー号



グラッドリー号馬匹紹介

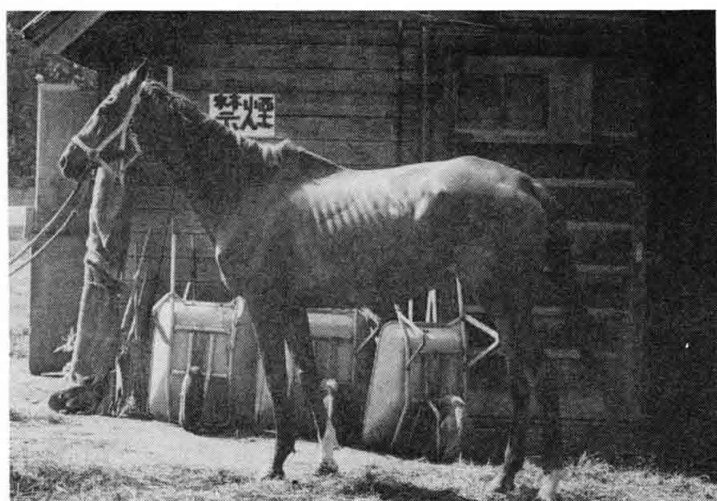
馬運車から降り立ったその馬は、ヒューヒュー、ゴーゴー、聞き慣れない音を発する、ちょっとかわいい栗毛の馬でした。

先天的に鼻くうが狭いので、手術でのどに穴をあけ、金属製のパイプとガーゼのフィルターを取り付けることによって、運動時にも楽に呼吸ができるようになったのです。当初はのどにあいた穴とその手入れにとまどったものでした。

競馬学校ではメーターまで飛んでいたというのだからすごい。乗り始めるとその持ち前の元気さを発揮し、駆歩ビュンビュン、下級生が乗ろうものなら、一瞬にして風となることが幾度あったでしょうか。

ニュージーランド産だからというわけではないのですが、他の馬にもかなり強気で、今でも元気に障害を飛んでいます。

アーネストヒダカ号



アーネストヒダカ号馬匹紹介

ヒダカはとってもプライドの高い馬です。その容貌からして、スラリとしなやかな、人間で言えば“スーパーモデル”みたいな本当にきれいな馬で、北大の厩舎にはちょっと不釣り合いな(?)くらいです。

姿だけでなく、まさに「才色兼備」(??)、乗馬としてもすばらしい実力を持った馬です。セントジョージをふめるとか、1 m 4 0 c m 余裕で飛べるとか、噂は華々しくさまざま。

言わば鳴り物入りでやってきたヒダカですが、そんな彼女もやっぱり北大では「新馬」。外乗でちょっと慣れない場所へ行ったり、三角地から幼稚園児が騒ぐのをみたりすると、心臓バクバク、目はシロクロ、細長い首をキリンみたいに高くもたげて、「ヒーッ！あれはなんなのー?!」とパニックにおちいってしまったりするのでした。

そんなデリケートなところや、なかなか人に気を許さないシャイなところなど、やっぱり女の子だなあ、とかわいく思ったりしています。

でも、あの食欲旺盛さ・・・というより食い意地の張りぐあい、そして、それをも上回るゲップへのこだわり。・・・やっぱり、女の子らしいっていうのは取り消しておこう・・・かな？

明日 桧 号 離 厩 報 告



1997年3月20日、明日桧号はモモセライディングファームへ離厩しました。

長い間、北大馬術部を支えてきてくれた“べ”は、さびしがりやでひとなつっこい馬でもありました。老齢のためか、冬になるとセキが止まらず、少しづらそうでしたが、気は若くて元気でした。

私がべと接したのは、離厩前のほんの2カ月ほどでした。それでも、毎日乗るたびに、そのパワーに感動し、沢山のことを教えられました。

歴代のチーフの方々の輝かしい成績を見れば、その能力については明らかだと思います。今でも、全国の各大学のOBや他団体の方が「明日桧はすごかった」と声をかけてくださり、そのたびにべの凄さは北大のみにとどまらないのだな、と感心します。

人間の気持ちまで察するべに、私は幾度となく助けられました。私がここまでやってきた原動力だと言っても過言ではありません。

最後に、皆様もご承知のこととは思いますが、1997年9月、べは亡くなりました。さびしがりやのべのことだから、むこうでも仲間を見つけてくれるといいなと思います。

べ、本当にお疲れさま。ありがとう。

明日松号主戦績

H 1	半 澤 杯	3級馬場	212点	福庄
		小 障	-0点	福庄
	N H P大会	S & H	失権	福庄
		標準障害	失権	福庄
	北 日 学	3級馬場	6 位	根井
		総 合	失権	福庄
		新人新馬	9 位	横山
	道市民大会	一般障害	-0点	福庄
			J0-4	伊藤
	自 馬 大	3級馬場	6 位	高村
	障害選手権	2級馬場	17位	平山
		L 級	4 位	中戸川
			-6点	林
	O B 戦	L 級	2 位	野中
			3 位	真鍋
H 2	半 澤 杯	複 合	5 位	横山
		小 障	6 位	外山
	N・H・Pステークス	中 障 害	8 位	横山
	自 馬 大	3 課 目	5 位	横山
		M 級 C	失権	横山
		新 人	失権	徳本
			OPEN	横山
	道地区大会	3級馬場	10位	横山
		標準障害	16位	横山
		2 段 階	9 位	野田
		中 障 害	9 位	野田
	北 日 学	二 走	失権	横山
		総 合	OPEN	横山
	道体育大会	総 合	OPEN	横山
	北海道馬場選手権	3級馬場	失権	飯田
H 3	山 下 杯	L 級	6 位	清水礼
			8 位	外山
	O B 戦	L 級	2 位	永田
	半 沢 杯	複 合	10位	外山
	自 馬 大	M 級 C	-0点	外山
		L 級		八木
	道地区大会	M 級 B	失権	外山
		2 課 目	14位	外山
	北 日 学	二 走		外山
		総 合	失権	外山

		道障害大会	L 級	3 位	飯田
				17位	池田
		山 下 杯	L 級	2 位	長谷川
		O B 戦	L 級	4 位	長谷川
		北海道馬場馬術選手権	2 課 目	11位	長谷川
H 4		半 澤 杯	総 合	10位	長谷川
			中 障 害	5 位	長谷川
		馬 場 大	2 課 目	19位	長谷川
		自 馬 大	2 課 目	14位	長谷川
			M C	10位	長谷川
			L 級	8 位	牧原
			S&H C	5 位	長谷川
			M 級 B	4 位	長谷川
		道地区大会	2 課 目	10位	長谷川
			内産MC	5 位	長谷川
				OPEN	荒瀬
			内産S H	7 位	長谷川
			内産障害選手権	5 位	長谷川
		北 日 学	二 走	5 位	長谷川
			総 合	13位	長谷川
		道障害馬術選手権大会	L 級 S H	失権	黒崎
		O B 戦	L 級	6 位	河合
H 5		全 日 学	二 走	35位	長谷川
		半 澤 杯	複 合	8 位	松原
			三 課 目	15位	松原
			中 障 害	3 位	松原
		自 馬 大	三課目 或B	16位	松原
			M 級 C	4 位	松原
			S&H C	2 位	松原
		道地区大会	内産MC	9 位	松原
			内産S&H C	7 位	松原
			内産MC選手権	2 位	松原
		北 日 学	二 走	3 位	松原
		道障害馬術選手権大会	L 級	12位	松原
		東日本馬術大会	標準内産選手権	失権	松原
		山 下 杯	M 級 C	6 位	松原
		全 日 学	二 走	5 位	松原
H 6		半 澤 杯	3 課目B	15位	松原
			中 障 害	5 位	松原
			小 障 害	1 位	鶴見
		自 馬 大	3 課目B	22位	松原
			M 級 C	11位	松原
		馬 場 大	3 課目A	19位	松原
		北 日 学	二 走	失権	松原

H 7

道障害馬術選手権大会

山 下 杯
半 澤 杯
春 白 馬
北 日 学

総 合
L 級 選 手
L 級 選 手
M 級 障 害
中 障 害
M 級 障 害
M C スピ
二 走
総 合
M 級 C

11位
6位
5位
3位
12位
20位
13位
失権
13位
6位

松原
谷地
谷地
谷地
谷地
谷地
谷地
谷地
谷地
中村





「おじょう」北玲は、昨年離厩しました。呼び名の通り、まれに高慢な態度を見せるところもありましたが、普段は神経質でこまやかな性格だったと思います。

競技では特にスティープルを得意とし、総合で幾度も全日に行き、恥ずかしくない結果を残してきました。小さい体ながら、ここ一番の集中力がすばらしい競技馬でした。

馬場の試合では、始まる前から汗をだらだら流し、血管を首じゅうに浮き立たせて、乗り手の血をひかせることもありましたが、それがまた「おじょう」なのでした。

書くのはこれぐらいにしておきます。

離厩後はメインフィールズに所属しています。

北玲号主戦績

S 6 1	半澤杯	小障	7位	佐多
	自馬大	新馬	6位	加藤
	公認	小障	18位	高野
	北日学	新人新馬	4位	金田
	道大	L級婦人	3位	加藤
		一般	33位	高野
	国体馬術強化馬選考会	障害	9位	長屋
S 6 2	自馬大	三級馬場	4位	加藤
		飛越回数	3位	中野
	公認	M級C	10位	加藤
		中障	14位	加藤
		中障飛越手権	5位	加藤
	北日学	小障	5位	石川
		二走	3位	加藤
		総合	2位	加藤
		三級馬場	7位	仲村
	道大	三級馬場	8位	湯浅
	札幌市民大	一般障害	4位	湯浅
	全日学	二走	44位	加藤
		総合	13位	加藤
	東日本	S & H	15位	加藤
		予選競技	20位	加藤
		内国産障害選権	19位	加藤
		障害	19位	加藤
	山下杯	L級	1位	前田
S 6 3	半澤杯	複合	2位	加藤
		中障	2位	加藤
		小障		林
	国体馬術強化馬選考会	総合	棄権	加藤
	北日学	二走	8位	加藤
		総合	3位	加藤
	道大	総合	4位	加藤
	国体選考会	障害	4位	加藤
		総合馬場	13位	加藤
		総合	棄権	加藤
	全日学	二走	20位	加藤
		総合	5位	加藤
H 1	半澤杯	三級馬場		堀崎
		小障		堀崎
	国体馬術強化馬選考会	S & H	1位	加藤
				堀崎
	道地区大会	標準障害	5位	堀崎

		NHP大会	S & H	9 位	堀崎
		北 日 学	標準障害	9 位	堀崎
		山下杯	二 走	11位	前田
		障害選手権	総 合	14位	堀崎
		O B 戦	L 級	2 位	福庄
			L 級		福庄
			L 級	9 位	堀川
H 2		半 澤 杯	複 合	10位	高村
		N・H・Pステークス	小 障 害	失権	堀川
		道地区大会	中級障害	11位	高村
		北 日 学	3級馬場	失権	堀川
		道体育大会	標準障害	22位	堀川
		馬場選手権	二 走	17位	堀川
		山下杯	総 合	失権	堀川
		全日本学生選手権	3級馬場	1 位	堀川
H 3		自 馬 大	L 級新人	17位	堀川
		道地区大会	3級馬場	10位	清水
		北 日 学	M C	11位	堀川
		道障害大会	全日本・D・E	5 位	堀川
		ノーザンホースカップ	M C	24位	堀川
		東 日 本	2 課 目	失権	堀川
		北海道馬術選手権	L 級	8 位	堀川
		全 日	二 走	8 位	堀川
H 4		半 澤 杯	総 合	11位	堀川
		自 馬 大	M B	3 位	堀川
		道地区大会	M C	失権	堀川
		北 日	内産中障	4 位	堀川
		北海道馬術選手権	2 課 目	36位	堀川
		ノーザンホースカップ	総 合	12位	堀川
		山下杯	2 課 目	30位	堀川
			2 課 目	34位	岡部
			M C	18位	岡部
			L級S&H(競)	失権	岡部
			2 課 目	9 位	岡部
			L 級 2競	20位	岡部
			L 級 S&H	11位	岡部
			二 走	11位	岡部
			総 合	失権	岡部
			内産障害	19位	岡部
			内産S H	7 位	岡部
			M C	失権	岡部
			L 級	失権	岡部
				3 位	岡部
				4 位	三浦

		O B 戦	L 級	5 位	高野
				8 位	黒崎
H 5	半 澤 杯		複 合	5 位	岡部
			3 課 目	10位	岡部
			中 障 害	15位	岡部
	馬 場 大		2 課 目		岡部
	自 馬 大		3 課 目	14位	岡部
			M C	20位	岡部
			S&H C	24位	岡部
	道地区大会		3 課 目	10位	岡部
			内産MC	10位	岡部
			内産SH	失権	岡部
	北 日 学		二 走	失権	岡部
	山 下 杯		総 合	11位	岡部
			L 級	2 位	鶴見
				6 位	米家
	O B 戦	L 級		2 位	楠木
				4 位	玉沢
H 6	半 澤 杯	複 合		10位	米家
		3 課 目		22位	米家
		小 障 害		10位	米家
	馬 場 大	2 課 目		20位	米家
		3 課 目		19位	米家
	自 馬 大	特L婦人		1 位	米家
		2 課 目		17位	米家
		3 課 目		20位	米家
	北 日 学	総 合		失権	米家
H 7	半 澤 杯	複 合		10位	米家
		3 課 目		13位	米家
	馬 場 大	3 課 目	廻	22位	米家
			B廻	11位	米家
		L 級標準		18位	米家
		L S & H		失権	米家
	北 日 学	総 合		17位	米家
	秋 自 馬	2 課 目		9 位	北村
		特 L		4 位	北村

自己・他己紹介

〈4年目〉

北村 薫

馬術部で4年間、中身も外見も大きく変わったと思う。たくさんものをくれて、ありがとう。

4年間楽しかった。

でも、コンパ後の寝ゲロおよび記憶を失う技と、10キロの体重だけは欲しくなかったな・・・。

中田 一紀

楽園 (1996. The Yellow Monkey/吉井 和哉)

メンソールの煙草を持って
小さな荷物で 楽園に行こう
楽園に行こう
大きな船で

僕等は大事な時間を 意味もなく削ってた
「なあなあ」のナイフで

苦しみも憎しみも 忘れてしまおうよ
スプーン一杯分の幸せを 分かちあおう

君が思うほど僕は弱い男じゃないぜ
愛と勇気と絶望を
この両手一杯に

赤い夕日をあびて 黒い海を渡ろう
そして遥かなあの自由な聖地へ

ひとりきりもいいだろう
ふたりだけでも いいだろう
猫も連れて行こう 好きにやればいい

いつか僕等も大人になりふけてゆく

MAKE YOU FREE 永久に蒼く YEAH

過去は消えないだろう
未来も疑うだろう
それじゃ哀しいだろう やるせないだろう

いつも僕等らは汚されて目覚めて行く

MAKE YOU FREE 永久に蒼く

● ● ●

バロンと言えばこの人。
いっしょうけんめいになると、
まわりがちょっと見えなくなるかも。

競馬好き。
いつもぼうしをかぶってます。

村田 拓自

いつもあたたかく見守ってくれる兄。今度は言葉でコミュニケーションしましょう。

池田 智義

● ● ●

とてもこわい。おそろしい。でもおもしろい。不思議な人である。私は、この方のとりこになってしまいそうだ。

亀山 巖

兄は僕が馬術部に入部しようときゅう舎にやってきた日の夕食を我利加でのごちそうしてくれました。その時、馬術の醍醐味について語ってくれました。その時の言葉で印象深かったのは、「馬術には、障害馬術と馬場馬術というものがあるが、一番おもしろいのは、総合-3DAYS・EVENTというもので、その中でスティーブルという固定障害のある野山を駆けめぐる競技があって、その競技は正に人馬一体となって人と馬との信頼関係が問われるとてもおもしろい競技で、俺が一番好きな競技だ。」というものでした。しかし、最近、兄の口からは「俺、スティーブル何か大嫌いだ。

卒部したら2度とやらないだろうな。」という言葉が聞かれます。僕が、前述の兄の言葉のことを聞くと強く否定します。この1年で兄の身に何が起こったかは分かりませんが、とにかく、スティーブルというものは恐ろしいものだと思います。

兄はとても話のうまい人です。話題も豊富でさまざまな方面に精通しています。毎日、日経を読んでいるだけはあると思いました。しかし、酒が入るとセクハラをする癖は、もうそろそろ改めないと、社会人になったときに訴えられかねないですよ。

浅野 知弘

有印私文書偽造？獣医師法違反？馬匹たる者の宿命なののでしょうか。いつも馬のことを考えているつもりなのですが、面倒がるところがありまして、時々後悔したりもします。自分には厳しく、他人には優しく、品行方正、常に視野を広く持ち、上を向いて歩きましょう。

なかなかうまくはいきませんが。こんなんでは浅野司法事務所の開設はいつになることでしょう。でも、目の前にあるものをひとつずつ積み上げていこうと思っています。

● ● ●

浅野さんにはお世話になった。馬がケガしたら浅野さんに見てもらい、いろいろ馬匹のことを勉強していて、すごいと思う。私はよく浅野さんにバカにされていたけど、春には浦河合宿にも連れていってもらい、楽しかった。

角 堂 豪

俺は副将角堂1年目と2年目と3年目のつなぎ役。池田兄を支えるのは俺しかない。

しかし、愛のビンタはいたかった（3日のある夜）。

チアフル君の成績に負けないバロン君をそだててみせる。気合と根性と酒で馬術部を盛り上げるぞー。

● ● ●

このお方は非常に活動的な人です。そして いろんな人とよく語りをしたがります。コンパの時、標的にされた人は練習の始まる時間まで離してくれません。それほど内に秘めたものが熱く煮えたぎってるのです。

N兄に引き続きバロンを全日につれていってください。

● ● ●

兄は酒が好きです。
肝臓が痛いそうです。

小谷 友也

雨が降っても、雪が降っても、風が吹いても、忙しくても、つらくても、悲しくても、どうしようもなく落ち込んでも、がんばろうかな。

● ● ●

彼はなぞの人である。かわいた笑いで、かわいた冗談、カラカラとみんなをわかせている。そんな彼は、人気者。

田中 悟史

次の北日には是が非でも出たいので、困難にも立ち向かってがんばりたいと思います。

● ● ●

1年目、部活にこななかった。1番最初にやめるのではなかろうかとうわさされた男。

そんな田中兄も、もう2年目。(1年生?)

でも最近やる気がないのかな。トルにつたわってしまいますよ。

北日2年連続在札という、偉大な経歴をもっと生かしてほしいです。

寺坂 龍児

ケーキでも食べながら、あと2年間がんばるか。のんびり あせらずマイペース。

● ● ●

とっても穏やかな人で、怒ったりすることあるのかな?と思っていましたが、実はとっても芯の強いお人。らしい。一緒にいるとなんだか安心できる、“ちょっぴりのんびりやのお兄ちゃん”というカンジです。

ところで“お兄ちゃん”甘いもの食べ過ぎてたらまた虫歯になっちゃいますよ。せめて歯医者にはちゃんと行きましょうね!

乗次 由美

どんなに落ちこんでいても、馬に会うとほっとする。
心からいとしいと思う。
私にとって馬とはそういう存在です。



初めは、続くかなあと心配していましたが、後輩ができてからますますしっかりしてきました。真面目すぎて悩んでしまうことも多いみたいだけど、マイペースで発散しているようです。2年目では紅一点でがんばっている彼女、時々ちょっとコワイと思うときもあるけれど、スピの前ではメロメロ。かわいいお母さんです。

君の活躍を期待しているよ。がんばれ乗次！

大崎 智弘

馬匹を目指して現在薬品で修行中です。
北日の飲み会でそそうして変なウワサが流れてしまいましたが、デマです。

やや控えめ、一見冷静沈着なハンサム顔。しかし、心の中では利己的思考がもやもやしているのです。（ちょっと言いすぎ。断言しすぎました。）まじめで一途な純情派。獣医学部ということもあり、将来は部にとってかけがえのない存在となってくれることでしょう。

尾崎 哲浩

留年するかもしれませんが、がんばってやっていこうと思います。よろしくお願いします。



「は～っ。疲れた。」が得意ぜりふのオジャ。いつもボーッとしている無気力ヤローのように見えるけど、実はその鋭い瞳の奥で何事か深いことを考えてる・・・んだよね？

でもホントに、ただのヘンな奴かと思ってたら大まちがい。私なんて何度彼の“名言”に助けられたことか。おじゃ、いつもありがとう。これからはずっと変わらないでいてね。

金丸 鉄平

燃えてるぜハート！！
焼けつくほどにヒート！！
とどけ、血液のビート！！

● ● ●

気をつけよう。スピードダウンとシートベルト。
「大丈夫でしょう。」は警察には通じなかったらしい。
様似・長沼が一時は別宅だったかねま。シーズン中はひたすらノーザンと帯広
に通いつめた。運転ごくろうさま。
てっぺい、集合におくれないようにね。

川崎 洋史

今年入部しました。
はやく2年生になってこうはいがほしいです。

● ● ●

HE IS GOTSU.

栗原 佳子

1年のときはゼンマイで動いていた。
2年になったら太陽電池で動くようになった。
ということは来年は・・・。

● ● ●

だまってりゃかわいいのにねえ。
ん？でも よくしゃべるからかわいいのかも？
よしこがくると つい「元気だね。」と思ってしまう。でも よしこがいなく
なると「なんか静か。」ちょっとさびしい。
頑張りやで いつも元気。
元気ない時もやっぱり元気。
そんなよしこを見ると、ちょっと元気になる私でした。

鈴木 忠樹

何げなく入ってしまった馬術部で、何げなくすごした半年間。練習の出席状況も決して良くはありませんでした。これからはまじめに來ます。

寺田 有美子

「ウマ カワイイなぁ」と思って、軽い気持ちで入ってしまった馬術部。でも、実際には、毎日忙しいし、作業も練習もきついし、冬は寒いし、重い物持たされるし、腕太くなるし、焼けるし、馬には蹴られるし、咬まれるし。そのうえ、のろまな私は毎日何かと失敗をしては怒られてばかり。こんないやなことばかりなのに、なんで続けてるんだろう？それはきっと、そういういやなこと全部帳消しにするくらいいいものが、何かある・・・に違いない・・・と、信じているから。けど、それって何だろう？ま、いっか。あんまり深く考えずにやってこ。

● ● ●

ほめること書くつもりはないけど、すごい心の優しい子です。

その分いっぱい悩んじゃうだろうなぁと思うけど、いっつも楽しそうにして私達につっこみをいれるスキを与えてくれます。スキだらけという話も・・・。

徳永 やよい

馬とか青草とか農場とか乾草とか
朝とか水缶とか体温計とか洗濯とか放牧とか
好きです。

最近人間も好きになってきました。

夜があけて朝が始まるのを感じながら、馬場にいると心の中にいろんなことが浮かびます。

もっと集中して乗ろうと思う。

● ● ●

いつもいろんなことを一生懸命考えているみたいだけど、その結果でできた結論と行動にしばしば僕たちは啞然とし、面食らい、吹き出してしまうのですが、それでも一生懸命な姿にがんばれと声をかけたくなるでもやっぱりどこか、ズレてる。

藤倉 大輔

皆様、元気に頑張りましょう。

● ● ●

彼はキレル男です。
頭がぶちキレと言うことではありません。
獣医学部でもあり、将来が楽しみです。

編集後記

本来なら1年半前には出ていたはずの部報なので、「近況報告」とは言い難いものになってしまいましたが、皆様のご協力のおかげでなんとか完成いたしました。部報の発行を心待ちになさっていた方々、本当に申し訳ありませんでした。

原稿をお寄せ下さったOBの方々をはじめとして、ご協力下さった皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。お待たせしたわりには月並みな編集になってしまいましたが、ご意見ご感想等ございましたらどうぞお寄せ下さい。

なお、96年度部報作成にあたって、95年度部報と同時に発行するため、OB会日より、OB名簿を省略させて戴きましたので御了承下さい。

編集者 寺田

部 報 第 4 2 号

平成10年8月発行

発行者 北海道大学馬術部

札幌市北区北17条西7丁目

北大体育会内

☎(011)716-2111 内線5597

☎(011)737-1626 (直通)

編集者 部報編集委員

印刷所 北大生協 北大印刷

